

2003年4月1日

明治生命・安田生命 2003年度合同入社式 社長挨拶（要旨）

明治生命保険相互会社（社長 金子亮太郎）と安田生命保険相互会社（社長 宮本三喜彦）は、2004年1月に合併することに基本合意しておりますが、2003年4月1日（火）に両社の新入社員を迎え、合同で入社式を行ないました。

以下、合同入社式の実施概要と、両社社長挨拶（要旨）をお知らせします。

【2003年度 明治生命・安田生命 合同入社式 実施概要】

1. 日 時 2003年4月1日（火） 午前10時～11時

2. 会 場 「津田ホール」（東京都渋谷区千駄ヶ谷）

3. 出席者 2003年4月入社新入職員310名（全国）（人）

	総合職	業務職	FS アソシエイト	一般 事務職	合 計
明治生命	67	—	59	48	174
安田生命	56	80	—	—	136
両社合計	123	80	59	48	310

※「FSアソシエイト」は、FP関連知識を習得し、営業職員教育やライフプランニング等を行なう地域限定のFP専門職

※「業務職」は、転居転勤のない地域限定の総合職。職務範囲は総合職と同じ。入社初期は法人営業部門に配属

4. 式次第
- ・10時00分 開会
 - ・10時10分 両社社長挨拶
（明治生命社長 金子亮太郎、安田生命社長 宮本三喜彦）
 - ・10時45分 新入職員決意表明（両社からそれぞれ代表1名）
 - ・10時50分 閉会

以上

明治生命 金子社長 挨拶（要旨）

「明治安田生命」の使命（ミッション）

- ・ 2004年1月1日に「明治安田生命保険」が誕生する。2002年1月24日に「経営統合を前提とした全面提携」を発表してから今日まで1年と68日の間、両社の職員は総力をあげて合併準備を進め、順調に推移
- ・ 21世紀、少子高齢化が急速に進展し「自己責任」「自助努力」の求められる社会において、国民生活の安定と福祉の向上に役立つ幅広いサービスを、心のこもったフェイス・トゥ・フェイスの営業・サービスネットワークで提供できるのは生命保険事業であり、21世紀のわが国における生命保険事業に対する社会の期待と要請は高まる一方である
- ・ 明治・安田の合併による「明治安田生命」の誕生も、この21世紀の生命保険事業に求められているミッションを立派に遂行できる「最も信頼される生命保険会社」にしていかなければならないという使命感から実現したもの

「明治安田生命人」としての3つのキーワード

- ・ 「明治安田生命」の経営理念は、われわれが21世紀の生命保険事業に期待されているミッションを遂行していく決意と、3つのキーワードで構成されている。3つのキーワードとは、即ち「パイオニア」「相互扶助の精神」「お客さま第一主義」。「明治安田生命人」に求められる、この3つのキーワードを、全員がしっかりと心に刻んでほしい
- ① 両社創業者の仕事は、「共済思想」「生命保険思想」を普及することから始まり、伝道者さながらのリーダーシップを発揮して、事業の基礎固めに渾身の力で取り組んだ。この精神こそ「パイオニア・スピリット」であり、時代の要請を先取りして機敏に対応し、創造力と活力を発揮してミッションを果敢に遂行してきた先達の姿勢を継承し、行動の標としていこう、ということ
- ② 「相互扶助の精神」は「生命保険の基本理念」。生命保険は、集団生活を営む人間社会において、相互扶助の仕組みとして生まれ、発展してきたもの。そういう意味において、「生命保険事業」は単なる「ビジネス」ではなく「人間愛の精神」を基盤に成り立っている。この生命保険事業の特性を踏まえ、「人間愛の精神」を大切に、常に「美しい心」「温かい心」をもって仕事に取り組むことが大切
- ③ そして、「美しい心」「温かい心」とは「相手のことを大切にする心」であり、仕事に敷衍すると「お客さま第一主義」ということ

新入社員への期待

- ・ 「合併」という大きなインパクトを入社する前からしっかり受け止め、明確な意志をもって会社の一員になった、実質的に「明治安田生命」第1期生となる皆さんは、例年の新入職員と比べて、「より主体的でアンビシャス」な皆さんが揃っていると確信している
- ・ 一人ひとりが、21世紀のわが国生命保険事業を先導すべく、「明治安田生命」の一員としてのミッションを自覚し、「しなやかな発想」と「パワフルですばやい行動」をもって「新しい旋風（つむじかぜ）」を巻き起こしていただくことを、心から期待する

以上

安田生命 宮本社長 挨拶（要旨）

私たちはどんな会社を造ろうとしているのか？

- ・「最も信頼される会社」を目指すために基本合意の中で「健全性」「収益力」「成長力」を万全のものとすることを宣言。
- ・「明治安田生命だからできる」「明治安田生命に頼みたいんだ」という、独自性、他と違う“強み”を造っていくことが重要。

新会社誕生に向けた一体運営

- ・4月1日付で両社の本社組織を、新会社組織に近い形に編成。
- ・人材交流、合同採用の実施や、営業目標の統一・重要顧客に対する共同アプローチを実施、さらに一般勘定の資産配分の方向性や資産別の運用方針も共通化。
- ・システム統合は最も重要な経営課題と認識。極めて早い段階から手を打ち、順調に進捗。
- ・4月からは一体運営が本格化、実質的な合併モードに突入。

みなさんが目指すべき「成長の方向性」

○「自分の得意技を持ち、それを磨こう」

- ・いつの時代でも、閉塞した状況を打開する起爆剤となったのは、**有為の志を持った若者**。
- ・旧来の殻を打ち破り高いレベルの仕事をやりたいには、その上に何か**専門的な能力**が必要。
- ・若いうちに大いに勉強して、『**自分はこの分野なら誰にも負けない**』というものを作り上げ、その道のプロフェッショナルになってほしい。

○“人間そのものを磨こう”

- ・哲学者の梅原猛氏は、著書「将たる所以」で“将の将たる人間の、まず第一の、そして最も肝心な条件は、人を知り、人間を愛することにあると思う”と言っている。一方、作家の塩野七生氏は“人は苦勞することも犠牲になることも厭わない。ただ、この人と思ったその人のために、自ら進んで、喜んでそうしたいのだ。”と話された。二人とも人を使う立場と使われる立場から同じ事を言っておられる。
- ・自分を磨く究極の目標は、“**人を知り 人間を愛する**”能力を育てる、豊かにするということだ。
- ・そのために、一つだけ欠けてはならない必要条件として“**共通感覚**”を挙げたい。作家の長谷部日出雄氏によると、哲学者カントはラテン語のセンスス・コムニス（SENSUS COMMUNIS）を“共通感覚”と訳すことを主張、即ち「**自分を他者の立場に置いて考えられる能力**」が「人間にとって一番大切な能力」と考えていたという。
- ・本当にその人の為とか、部下の為と思ってなされる言動が“共通感覚”であり、本当の意味での人間の愛情である。ぜひ「**自分を他者の立場に置いて考えられる能力**」を養い、磨いてほしい。

「保険の平成維新」(合併)に自分をぶつけよう

- ・私はこの大きな私たちのプロジェクト(合併)を「保険の平成維新」と言っている。
- ・両社の創業者、阿部泰蔵と安田善次郎が全く同じ理念”**文明開化に立ち上がる一家の主人の万一の保障**”と“**保険を金儲けの道具にしてはならない**”を掲げた。多くの保険会社の中で2社だけが生き残った理由はその理念の正しさ、精神の高さにあった。
- ・今、この混沌とした閉塞感の中の日本で、平成維新を掲げ、理念・理想・使命に向かい集中できることは幸せであり、純粹に、真摯に、命懸けで自分をぶつけていこうとみんなに伝えている。
- ・お客さまのために一生懸命頑張れば、組織が、会社が良くなる。会社が良くなれば一生懸命頑張った人たちも良くなる—そんなすばらしい組織、会社を一緒に造っていこう。

以上